

## 1. 略歴

1979年4月	九州大学文学部 入学
1983年3月	同大学同学部英語学英米文学専門課程 卒業
1983年4月	東京大学大学院人文科学研究科英語英米文学専攻修士課程 入学
1986年3月	同大学院同研究科同専攻修士課程 修了
1986年4月	東京大学大学院人文科学研究科英語英米文学専攻博士課程 入学
1988年3月	同大学院同研究科同専攻博士課程 中退
1988年4月	東京女子大学文理学部英米文学科 専任講師
1992年4月	同大学同学部同学科 助教授
1993年9月	ノースカロライナ大学チャペルヒル校 フルブライト交換研究員 (～1994年9月)
1997年4月	立教大学文学部英米文学科 助教授
1999年4月	同大学同学部同学科 教授
2003年9月	ノースカロライナ大学チャペルヒル校 フルブライト交換研究員 (～2004年9月)
2007年4月	立教大学文学部文学科英米文学専修 教授
2017年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

## 2. 主な研究活動

### a 主要業績

#### (1) 単著

『迷走の果てのトム・ソーヤー —— 小説家マーク・トウェインの軌跡』(松柏社 2000年4月) 418pp.

『敗北と文学 —— アメリカ南部と近代日本』(松柏社 2005年5月) 359pp.

#### (2) 共著

『トム・ソーヤーとハックルベリー・フィン —— マーク・トウェインのミシシッピ河』(共著者: 今村楯夫・和田悟)  
(求龍堂 1996年11月) 119pp.

#### (3) 編著書

『文学の基礎レッスン [立教大学人文叢書2]』(春風社 2006年10月) viii pp. + 298pp.

『アメリカ文学のアリーナ —— ロマンズ・大衆・文学史』(共編者: 平石貴樹・諏訪部浩一) (松柏社 2013年3月)  
391pp.

#### (4) 論文

「南部文学における「語り」とグロテスクなものをめぐって —— 『哀しき酒場の唄』を中心に」『東京女子大学英米文学評論』35号 (1989年3月) pp. 31-54.

“The Southern Fate of Humor: Mark Twain’s Private Civil War in *A Connecticut Yankee in King Arthur’s Court*” 『東京女子大学英米文学評論』36号 (1990年3月) pp. 19-36.

「書くこと」と「復讐すること」—— 『天使よ故郷を見よ』再読 『東京女子大学英米文学評論』37号 (1991年3月)  
pp. 39-72.

「宙づりの「コレスポンデンス」とその諸変奏 —— 『遠い声、遠い部屋』研究」『東京女子大学英米文学評論』38号  
(1992年3月) pp. 29-52.

「聖」と「性」のはざま —— 『賢い血』における母のまなざしをめぐって」『東京女子大学英米文学評論』39号 (1993年3月) pp. 61-80.

「マーク・トウェインと南部 —— 『ハックルベリー・フィンの冒険』と奴隷制度」『東京女子大学英米文学評論』42号 (1996年3月) pp. 21-64.

「マーク・トウェイン、その南部的宿命」渡辺利雄編 『読み直すアメリカ文学』(研究社 1996年3月) pp. 331-49.

「「マーク・トウェイン」となった男、そして「もうひとつのアメリカ」」『ユリイカ』(青土社 1996年7月号) pp. 212-220.

「オリヴィアのポートレートと「ヘルマイラ」 —— エッセイ」『東京女子大学英米文学評論』43号 (1997年3月) pp. 1-15.

「南部、畏怖すべき空間 —— アボリショニズム、メンケン、そしてフォークナー」『ユリイカ』(青土社 1997年12月号) pp. 120-127.

- 「告白への道程 —— 小説 *The Adventures of Tom Sawyer* の位置」『英文学研究』第75巻第1号(1998年9月) pp.61-73.
- 「ウィリアム・フォークナーとポストモダン期の南部文学」『フォークナー』第1号(松柏社 1999年4月) pp.25-34.
- “William Faulkner and Southern Literature in the Postmodern Era” 日本ウィリアム・フォークナー協会ホームページ  
(<http://www.faulknerjapan.com/journal/No1/GotoRevd.htm>) (1999年4月)
- “Mark Twain’s Sense of an Ending: A View on His Attitude toward Writing at the Turn of the Century” *Proceedings of the Kyoto American Studies Summer Seminar, July 29-31, 1999* [第4 回京都アメリカ研究夏季セミナー報告集] (立命館大学アメリカ研究センター 2000年3月) pp.157-166.
- 「ウルフとホイットマン —— 私怨と公準」古平隆・常本浩編『人間と世界 —— トマス・ウルフ論集2000』(金星堂 2000年10月) pp.13-30.
- 「作者を死なすな」『英語青年』第147巻第3号(研究社 2001年6月) pp.138-139.
- 「それぞれの連結 —— マーク・トウェインと夏目漱石について」國重純二編『アメリカ文学ミレニアムⅠ』(南雲堂 2001年12月) pp.317-338, pp.519-524.
- 「マーク・トウェイン、文学とテクノロジー」『マーク・トウェイン —— 研究と批評』第1号(南雲堂 2002年4月) pp.10-13.
- 「南部文学研究方法論、私的序説」『英文学春秋』第11号(臨川書店 2002年5月) pp.34-51.
- 「21世紀の *Huck Finn* 批評のために(1) —— 義憤の批評、「優しい」批評」『英語青年』第148巻第5号(研究社 2002年8月) pp.291-293.
- 「21世紀の *Huck Finn* 批評のために(2) —— 寡言の美学に正対する」『英語青年』第148巻第6号(研究社 2002年9月) pp.361-363.
- 「21世紀の *Huck Finn* 批評のために(3) —— 主語なき批評を超えて」『英語青年』第148巻第7号(研究社 2002年10月) pp.438-440.
- 「中上・南部・転載の文学」『英語青年』第149巻第2号(研究社 2003年5月) pp.94-95.
- 「探偵嫌いの探偵小説」『マーク・トウェイン —— 研究と批評』第2号(南雲堂 2003年4月) pp.10-18.
- 「ア チャイルド ハプンズ —— レイモンド・カーヴァー体験について、エッセイ」平石貴樹・宮脇俊文編『レイ、ぼくらと話そう —— レイモンド・カーヴァー論集』(南雲堂 2004年2月) pp.77-94.
- 「アメリカ・南部・文学」『英語青年』第150巻第8号(研究社 2004年11月) pp.462-465.
- 「アメリカ文化史における南部 —— ディレンマという思想、敗北という文化」亀井俊介監修; 平石貴樹編『アメリカ —— 文学史・文化史の展望』(松柏社 2005年3月) pp.169-199.
- 「戦後第三世代の南部文学 —— 近代・〈父〉・響きと怒り」『フォークナー』第7号(松柏社 2005年4月) pp.31-42.
- 「異端の歷程 —— 共和国アメリカにおける南部」上杉忍・巽孝之編『アメリカの文明と自画像』(ミネルヴァ書房 2006年6月) pp.69-94.
- 「ハックルベリー・フィンともうひとつのアメリカ」業績番号4所収 pp.175-205.
- 「ヘミングウェイとマーク・トウェイン —— 〈女〉をめぐる文学的因縁について」今村楯夫編『アーネスト・ヘミングウェイの文学 MINERVA 英米文学ライブラリー⑭』(ミネルヴァ書房 2006年11月) pp.128-142.
- 「フラナリー・オコナーの目 —— 神聖と官能について」『英語青年』第152巻第11号(研究社 2007年2月) pp.673-676.
- 「日本のハック・フィン? —— 『ハックルベリー・フィンの冒険』と『破戒』」『マーク・トウェイン —— 研究と批評』第6号(南雲堂 2007年4月) pp.18-25.
- 「危機下の知性 —— アメリカ南部と近代日本」巽孝之編『反知性の帝国 —— アメリカ・文学・精神史』(南雲堂 2008年4月) pp.253-82, p.301.
- 「フォークナー —— 敗亡の国、ナショナリズムと愛(上)」『フォークナー』第10号(松柏社 2008年4月) pp.91-101.
- 「フォークナー —— 敗亡の国、ナショナリズムと愛(下)」『フォークナー』第11号(松柏社 2009年4月) pp.96-108.
- 「孤独のインペラティヴ —— カーソン・マッカーズの文学」田中久男監修; 亀井俊介・平石貴樹編『アメリカ文学のニューフロンティア』(南雲堂 2009年10月) pp.200-222.
- 「マーク・トウェインの著作・序説」亀井俊介監修; 石原剛・中垣恒太郎他編『マーク・トウェイン文学／文化事典』(彩流社 2010年10月) pp.44-55.
- 「交差する〈南〉、マーク・トウェイン、ポー、そしてフォークナー」『マーク・トウェイン —— 研究と批評』第9号(南雲堂 2010年4月) pp.47-59.
- 「窺変・橋本治 —— 告白」『大衆文化』第4号(立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター 2010年9月) pp.24-36.
- “Cultures of Defeat, from Twain and Henry Grady to Faulkner and Mishima,” *Mark Twain Studies*, Vol. 3 (The Japan Mark Twain Society, October 2010) pp.93-112.

『場所の感覚』とグロテスクな風景 —— 南部女性文学のためのノート」野田研一編『〈風景〉のアメリカ文化学 シリーズ・アメリカ文化を読む2』（ミネルヴァ書房 2011年4月）pp.83-104.

“Reading William Faulkner’s *As I Lay Dying* as a Poverty Narrative,” *The Japanese Journal of American Studies* 22(June 2011) pp. 109-124.

「マーク・トウェインの「転向」—— シリーズエッセイ マーク・トウェイン研究余話8」『マーク・トウェイン —— 研究と批評』第11号（南雲堂 2012年5月）pp.4-8.

「裸ぎとしての大衆小説 —— 『王子と乞食』から『ハックルベリー・フィンの冒険』へ」業績番号5所収 pp.100-134.

「女性と風景 —— アメリカ南部文学の場合」新田啓子編『ジェンダー研究の現在 —— 性という多面体』（有斐閣 2013年4月）pp.51-77.

「愛する男、愛される少年 —— 『王子と乞食』から『ハックルベリー・フィンの冒険』へ —— シリーズエッセイ マーク・トウェイン研究余話9」『マーク・トウェイン —— 研究と批評』第12号（南雲堂 2013年5月）pp.4-10.

「ヤンキーとサザナー —— 葛藤するふたつの相貌」野田研一・山里勝己・笹田直人編『アメリカ文化 55のキーワード 世界文化シリーズ』（ミネルヴァ書房 2013年11月）pp.24-27.

「Was Huck Bulkington? —— 水の旅、消える南部」澤田直編『移動者の眼が露出させる光景 —— 越境文学論』（弘学社 2014年3月）pp.113-131.

「トウェインとインディアン —— シリーズエッセイ マーク・トウェイン研究余話10」『マーク・トウェイン —— 研究と批評』第13号（南雲堂 2014年4月）pp.4-8.

「南北戦争期におけるマーク・トウェインのふるまい」『マーク・トウェイン —— 研究と批評』第13号（南雲堂 2014年4月）pp.10-18.

「奴隷解放とアメリカ文学」『アメリカ文学』第75号（日本アメリカ文学会東京支部 2014年6月）pp.1-7.

「破戒としての文学 —— 島崎藤村小論」藤平育子監修、高尾直知・舌津智之編『抵抗することば —— 暴力と文学的想像力』（南雲堂 2014年7月）pp.287-304.

「家・父・伝説 —— フォークナーの『土にまみれた旗』と島崎藤村の『家』」『フォークナー』第17号（松柏社 2015年4月）pp.112-126.

#### (5) 書評

池上日出夫『アメリカ文学の源流 —— マーク・トウェイン』『英語青年』第140巻第9号（研究社 1994年12月）pp.487-488.

武藤脩二『印象と効果 —— アメリカ文学の水脈』『英文学研究』第79巻第1号（2002年9月）pp.63-66.

Fanning, Philip Ashley. *Mark Twain and Orion Clemens: Brothers, Partners, Strangers*. 『マーク・トウェイン —— 研究と批評』第4号（南雲堂 2005年4月）pp.110-114.

柴田元幸『アメリカン・ナルシス —— メルヴィルからミルハウザーまで』『英語青年』第151巻第7号（研究社 2005年10月）pp.50-51.

越智博美『カポーティ —— 人と文学』『アメリカ文学研究』第43号（2007年3月）p.190.

杉山直人『トウェインとケイブルのアメリカ南部 —— 近代化と解放民のゆくえ』『マーク・トウェイン —— 研究と批評』第8号（南雲堂 2009年4月）pp.134-137.

大橋健三郎『日常と歴史 —— アメリカ文学研究と日本文学評論』『英文学研究』第86巻（2009年11月）pp.66-71.

エドゥアル・グリッサン『フォークナー、ミシシッピ』（中村隆之訳）『週刊読書人』第296号（2012年10月19日）p.5.

#### (6) 翻訳

フレドリック・ジェイムソン『のちに生まれる者へ』（共訳者：鈴木聡・篠崎実）（紀伊國屋書店 1993年6月）556pp.

テリー・イーグルトン『美のイデオロギー』（共訳者：鈴木聡・藤巻明・新井潤美）（紀伊國屋書店 1996年4月）604pp.

#### (7) 短文寄稿・記事等

「アンケート・20世紀のこの1点 Wilbur J. Cash, *The Mind of the South*」『英語青年』第144巻第11号（1999年2月号）p.682.

「マーク・トウェインと奴隷制度」『週刊朝日百科 世界の文学 34 —— 南北アメリカ I マーク・トウェイン、ストーリーほか』（朝日新聞社 2000年3月）pp.106-107.

“A Note from a Country of Amnesia to a Country of the Unforgettable,” *The Journal of the American Literature Society of Japan* 4 (2005) pp.119-122.

“Kazuhiko Goto, *Defeat and Literature: On the Postbellum South and Modern Japan*,” *The Journal of the American Literature Society of Japan* 5 (2006) pp.101-103.[自著を語る]

対談 渡辺利雄×後藤和彦「生み出されるアメリカ文学史・渡辺利雄著『講義アメリカ文学史』をめぐって『図書新聞』第2853号(2008年1月12日) pp.1-2.

「Injun Joe はいかにネイティブか —— Mark Twain とアメリカ先住民」『日本英文学会第80回大会 Proceedings』(2008年9月) pp.173-175.

「小説『風と共に去りぬ』の世界 —— 奴隷制度、南北戦争、そして戦後」『帝劇開場100周年記念公演 帝劇グランド・ロマン『風と共に去りぬ』公演プログラム』(2011年6月) pp.52-55.

「フィッツジェラルドのギャ(ツ)ツビー」『日本スコット・フィッツジェラルド協会 ニュースレター』第26号(2011年10月) pp.1-2.

(8) 講演・学会発表・その他

「伝記不要の作家、トマス・ウルフ」シンポジウム『伝記と文学』(司会: 佐藤宏子; 他の講師: 今村楯夫・坪井清彦) アメリカ学会第22回年次大会(東京女子大学 1988年3月)

「南部文学における「語り」とグロテスクなものについて —— *The Ballad of the Sad Café* 解体」日本アメリカ文学会東京支部月例会(慶應義塾大学 1988年9月)

“Writing/Wreaking in un-Romantic Agony: *Look Homeward, Angel* Reconsidered” 日本アメリカ文学会東京支部月例会(慶應義塾大学 1990年11月)

「宙吊りの“correspondence” —— *Other Voices, Other Rooms* 研究」日本アメリカ文学会第30回全国大会(琉球大学 1991年10月)

「『聖』と『性』のはざま —— *Wise Blood* における母のまなざしをめぐって」日本英文学会第64回全国大会(西南学院大学 1992年5月)

「トムとハックの場合」シンポジウム『アメリカ小説史を読み直す(II) —— トムとハックの場合』司会: 平石貴樹; 他の講師: 八木敏雄・有馬容子) 日本アメリカ文学会東京支部月例会(慶應義塾大学 1995年12月)

「Mark Twain と『もうひとつのアメリカ』 —— *A Connecticut Yankee in King Arthur's Court* と南北戦争」日本アメリカ文学会第35回全国大会(札幌大学 1996年10月)

「オリヴィアの“ivory miniature”は存在したか —— マーク・トウェインとエルマイラ」日本アメリカ文学会東京支部月例会(慶應義塾大学 1997年3月)

「ウィリアム・フォークナーとポストモダン期の南部文学」シンポジウム『フォークナーと世界文学』(司会: 藤平育子; 他の講師: 加藤雄二 アン・マクナイト) 日本ウィリアム・フォークナー協会第1回大会(広島大学 1998年10月)

“Mark Twain's Sense of an Ending: A View on his Attitude toward Writing at the Turn of the Century” 第4回京都アメリカ研究夏季セミナー[文学部門 英語による報告](司会: 及川正博; コメンテーター: 三石庸子; ジェネラルコメンテーター: シェリー・フィッシャー・フィッシュキン)(立命館大学 1999年7月~8月)

「『転轍』の文学 —— アメリカ南部と近代日本、トウェインと漱石」日本アメリカ文学会東京支部月例会(慶應義塾大学 2001年1月)

「マーク・トウェイン、文学とテクノロジー」シンポジウム『マーク・トウェインとテクノロジー』司会・講師(他の講師: 折島正司・巽孝之・富田直久) 日本マーク・トウェイン協会第5回全国大会(盛岡市勤労会館大ホール 2001年10月)

「Who'll Kill a Mockingbird?」シンポジウム『変貌するマーク・トウェイン —— 文学史と文化史』司会・講師(他の講師: 平石貴樹・巽孝之・辻本庸子・亀井俊介) 日本英文学会第74回全国大会(北星学園大学 2002年5月)

「探偵嫌いの探偵小説」シンポジウム『マーク・トウェインと探偵小説』司会・講師(他の講師: 小池滋・平石貴樹・辻和彦) 日本マーク・トウェイン協会第6回全国大会(東洋大学 2002年10月)

「戦後第三世代の南部文学 —— 近代・〈父〉・『響きと怒り』」シンポジウム『フォークナーと南部文学』(司会: 並木信明; 他の講師: 中村紘一・ソーントン不破直子) 日本フォークナー協会第7回大会(関西学院大学 2004年10月)

「『逃亡者(フュージティヴ)』還る —— 南部農本主義と〈近代〉、アレン・テイトとドナルド・デイヴィッドソン」日本アメリカ文学会東京支部月例会(慶應義塾大学 2004年11月)

シンポジウム『〈女〉を語る、のディシプリン —— アメリカの文学原論』司会(講師: 野島秀勝・千石英世・竹村和子・田辺千景) 日本英文学会第77回全国大会(日本大学 2005年5月)

「Was Huck Bulkington? —— 『白鯨』と南部の幻影」日本アメリカ文学会東京支部月例会(慶應義塾大学 2006年1月)

「日本のハック・フィン? —— 『ハックルベリー・フィンの冒険』と『破戒』」シンポジウム『日本のハック・フィン』司会・講師(他の講師: 柴田元幸・宇沢美子・石原剛) 日本マーク・トウェイン協会第10回全国大会(中京大学 2006年10月)

“On the Culture of Defeat: A Connecticut Yankee, Henry Grady and Japan” (Panel “Faulkner and Twain in Japan” at Faulkner and Twain Conference [Southeast Missouri State University, 2006年10月]) (オーガナイザー: メアリ・ナイトン; 他のパネラー: 林文代・巽孝之)

「南部文学と性の不安について」シンポジウム『私秘性の芸術表現——公共圏とセクシュアリティ』(司会: 竹村和子; 他の講師: 内野儀・清水晶子) アメリカ学会第41回年次大会 (立教大学 2007年6月)

「Injun Joe はいかにネイティブか——Mark Twain とアメリカ先住民」シンポジウム『Going Native——新大陸の先住民表象の可能性をめぐって』(司会: 今村楯夫; 他の講師: 浅井雅志・長岡真吾・杉山晃) 日本英文学会第80回全国大会 (広島大学 2008年5月)

シンポジウム『How Was It Black?——モダニズム再考』司会 (講師: 佐藤宏子・長畑明利・新田啓子・上野直子) 日本アメリカ文学会第47回全国大会 (西南学院大学 2008年10月)

「W. J. Cash と志賀直哉——「野蛮な理想」と「原始的な感情」」シンポジウム『反知性主義再考』(司会: 久保文明; 他の講師: 前川玲子・森本あんり・会田弘継) アメリカ学会第45回年次大会 (東京大学 2011年6月)

講演: 「南北戦争期におけるマーク・トウェインのふるまい」日本英文学会北海道支部第58回大会 (北海道大学 2013年10月)

「黒人を描く」シンポジウム『古典の困難——それでも、やっぱり、教えたい?』(司会: 阿部公彦; 他の講師: 井出新・高橋和久) 日本英文学会関東支部第8回大会 (日本女子大学 2013年11月)

「奴隷解放とアメリカ文学」シンポジウム『奴隷解放宣言150年——現代アメリカ作家が描く奴隷解放』司会・講師 (他の講師: 荒このみ・山辺省太・有光道生) 日本アメリカ文学会東京支部月例会 (慶應義塾大学 2013年12月)

「歴史と文学のあいだには、再び」シンポジウム『文学史を書くこと、文学史を教えること』(司会・講師: 丹治愛; 講師: 高橋和久・原田範行; ディスカッション: 阿部公彦) 日本英文学会北海道支部第59回大会 (北海道武蔵女子短期大学 2014年10月)

シンポジウム『愛国の語り方、反戦の唱え方——アメリカの戦争をめぐる文学者・知識人の言説』司会 (講師: 大西直樹・奥田暁代・越智博美; ディスカッション: 三牧聖子) アメリカ学会第49回年次大会 (国際基督教大学 2015年6月)

講演: 「もうひとつの『歴史と文学のあいだには』——日本におけるアメリカ文学研究者のふるまい」中四国アメリカ文学会第44回大会 (香川大学 2015年6月)

### 3. 主な社会活動

#### (1) 非常勤講師

東邦大学 (1987.4~1989.3)

学習院大学 (1988.4~1992.3)

明治大学経営学部 (1989.4~1991.3); 明治大学文学部 (1991.4~1994.3, 1995.4~1997.3, 1998.4~2003.3, 2009.4~2010.3)

明治学院大学文学部 (1996.4~1999.3)

東京女子大学文理学部 (1997.4~2003.3, 2009.4~2010.3)

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 (1999.4~2002.3, 2014.7 [集中講義], 2014.10~2017.3)

九州大学大学院文学研究科・文学部 (2001.7 [集中講義])

京都大学大学院文学研究科・文学部 (2003.7 [集中講義], 2015.9 [集中講義])

武蔵大学文学部 (2005.4~2007.3)

お茶の水女子大学文教育学部 (2005.4~2009.3)

学習院大学大学院文学研究科 (2007.9~2008.3)

早稲田大学国際教養学部 (2010.4~2010.7)

山口大学人文学部 (2010.9 [集中講義])

西南学院大学文学部 (2012.9 [集中講義])

#### (2) 学会

日本アメリカ文学会編集委員 (2001.4~2003.3, 2006.4~2011.3), 東京支部副支部長 (2005.4~2009.3), 東京支部支部長 (2009.4~2011.3), 編集委員長 (2014.4~現在)

日本英文学会編集委員 (2005.4~2008.3), 事務局長補佐 (2011.4~2012.5), 事務局長 (2012.6~2013.5), 理事 (2015.5~現在)

日本マーク・トウェイン協会事務局長 (2005.4~2008.3), 副会長 (2012.4~2015.3), 会長 (2015.4~現在)